

別記様式1

森林環境保全造林事業内訳書

所管	申請者(代理人)氏名

令和 年度 月申請分

[illegible]

別記様式 2

森林作業道作設に係るチェックリスト

申請日： 年 月 日

開設する者：

森林の所在地：

施工延長：

検査日： 年 月 日検査者：

区分		チェック項目	申請者	検査者
路線計画	基本事項	① 路体は堅固に締め固めた土構造を基本とする。 ② 地形に沿った屈曲線形、排水を考慮した波形勾配とする。 ③ 林道や公道との接続地点、地形を考慮した接続方法を適切に決定する。 ④ 作設箇所は原則として 35° 未満とし、人家、施設、水源地などの保全対象がない箇所を基本とし、特に保全対象に直接被害を与える箇所は避け迂回方法を適切に決定する。 ⑤ 急傾斜地の 0 次谷を含む谷地形や破碎帯などを通過しなければならない場合は、区間を極力短くする。 ⑥ 溪流沿いからは離し、濁水や土砂が溪流へ直接、流入しないようにする。 ⑦ 作設箇所について、やむを得ず 35° 以上の箇所、保全対象が周囲に存在する箇所、一般的に崩壊しやすい箇所又は溪流沿いを通過する箇所は適切な構造物を設置する。 ⑧ 森林施業の効率化の観点だけでなく潰れ地となる小規模森林所有者にも配慮する。 ⑨ 環境への影響に配慮した必要最低限の路網密度となるよう配置する。 ⑩ 造材、積込み作業等を安全かつ効率的に行うための空間を適切に配置する。 ⑪ 希少な野生生物等が確認された場合は、路線計画や作業時期の変更等を検討・実施する。 ⑫ 森林法等に基づく届け出等の手続きについて、林務担当部局に確認する。	☐	☐
施工	幅員	使用する林業機械と傾斜区分に対応して示されている幅員の目安に適合する。	☐	☐

縦断勾配	①集材作業を行う車両が、木材を積載し安全に上り走行・下り走行ができることを基本とする。 ②集材作業を行う車両の自重、木材積載時の荷重バランス、エンジン出力等のほか、路面の固さ、土質による滑りやすさ、急勾配ほど路面浸食が起きやすくなること等を考慮する。 ③現地条件が良い場合は概ね 10° 以下とし、やむを得ない場合は短区間に限り概ね 14° とする。 ③ 安全確保の観点から、急勾配区間と曲線部の組み合わせを避ける。	☐	☐
排水施設	① 路面水がまとまった流量とならない間隔で設置する。 ② 横断排水施設やカーブを利用して分散排水する。排水先がない場合は、側溝等により導水する。 ③ 排水溝は、原則として開きよとする。 ④ 小渓流の横断は、原則として洗い越し施工とする。 ⑤ 丸太やゴム板による横断排水施設は、林業機械等の重量などを考慮する。 ⑥ 排水はカーブ上部の入口部分で行い、曲線部への雨水の流入を避ける。 ⑦ コンクリート路面工等を設ける場合は、地山と路面工等の境界の侵食防止等の観点から横断排水施設を設置する。 ⑧ 横断排水施設の排水先には、水たたきを設置する。 ⑨ 転落事故防止のため、降坂区間やカーブで谷側を低くしない。	☐	☐
切土・盛土	① 土質に応じた施工方法により実施する。 ② 幅員や土場等は必要最小限とし、残土処理を発生しないようにする。 ③ 残土は、盛土規制法等に則して適切に処分する。	☐	☐
切土	①切土高は 1.5m程度以内を基本とし、高い切土が連続しないよう施工する。 ②切土のり面勾配は土砂の場合は6分、岩石の場合が3分を基本として施工する。	☐	☐

	盛土	①複数層に区分し、各層 30 cm程度の厚さとなるよう十分に締め固める。 ②盛土のり面勾配は、概ね1割より緩い勾配とする。また、盛土高が2 mを超える場合は、1割2分より緩い勾配とする。 ③ヘアピンカーブでは、路面高と路線配置を精査し、盛土箇所を谷側に張り出す場合には、締固めを繰り返し行ったり、構造物を設けたりするなどして、路体に十分な強度を持たせる。 ④沢、湧水箇所、地表水の局所的な流入箇所は、盛土を避け土場は設置しない。やむを得ない場合は排水施設を設置する。 ⑤盛土の土量が不足する場合は、当該盛土の前後の路床高の調整など縦方向での土量調整を行う。	☐	☐
	曲線部	林業機械が安全に走行できるよう、内輪差や下り旋回時のふくらみを考慮した曲線部の拡幅を行う。	☐	☐
	構造物等	① 構造物は、現地条件に応じた規格・構造とする。 ② 軟弱地盤を通過する際は、水抜き処理、側溝の設置等を行う。 ③ 森林作業道の作設に不向きな黒ぼくや粘土質のロームなどの箇所を通過する場合は、必要な路面支持力を得るため、砕石を施すなどの対策をとる。 ④ 火山灰土など一度掘り起こすと締め固めが効かない土質の箇所で掘削を行う場合は、火山灰土などの深さに応じて、剥ぎ取ったり深層と混ぜ合わせたり等の工夫をする。 ⑤ 2 t 積トラックなど設置圧の高い車両が走行する場合には、荷重を分散させるため丸太組による路肩補強工を施工する。	☐	☐
	伐開	① 斜面の方向や気象条件を考慮し、必要最小限の幅とする。 ② 幅は、土質条件や風衝を考慮して決定する。 ③ 路線沿いの立木は、できるだけ残す。	☐	☐
周辺環境への配慮		人家、道路等の保全対象が周囲にある場合は作設しない。やむを得ず作設する場合は、土砂が流出したり、土石が周辺に転落したりしないよう、必要な対策をとる。	☐	☐
管理		① 一般車両の侵入を禁止するなどの適正な管理を行う。 ② 森林作業道の管理主体を明確する。	☐	☐

別記様式 3

下刈り必要性認証資料①

申請者名	
市町村	

項 目	内 容
林 班 ・ 小 班 ・ 分 班	
現 地 確 認 日	
下 刈 り 実 施 予 定 日	
樹 種	
植 栽 密 度	
下 刈 り 実 績	
競 争 状 態	優勢木（C 1、C 2）の割合が8割を超えている、 または超える見込み：
植 栽 木 樹 高 平 均 （該当する樹高に○）	0.5m未満 ・ 1.0m未満 ・ 1.5m未満 ・ 2.0m未満 ・ 2.0m以上
雑 草 木 タ イ プ （該当するタイプに○）	ササ類 ・ キイチゴ類 ・ ススキ ・ 草本類 ・ その他木本類
雑 草 木 最 大 高 （年間を通じた最大高）	

- 1、現地確認日には、事業実施前に現地を確認した日付を記入して下さい。
- 2、雑草木最大高には、年間の最大高（見込みを含む）を記入して下さい。木本の場合は、当年度の最大高さを記入して下さい。

下刈り必要性認証資料②

1. 遠景（競合植生の繁茂状況が把握できる画像）

実
施
前

実
施
後

2. 近景（5～10 本程度の植栽木の競合状況が把握できる画像）

実
施
前

実
施
後

別記様式4

平均胸高直径調査表

樹種・林齡

標準地 胸高直径		①	②	③	④	⑤	⑥	本数計	直径合計
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
	本数							0	0
合計	本数	0	0	0	0	0	0	(B) 0	(A) 0

平均胸高直径

cm

※調査表の証拠書類は、補助金交付申請書への添付は任意とする。

(ただし、これらの書類は事業主体が保管すべき補助金交付申請関係書類である。)

搬出材積集計表

〓約化団地番号：_____

整理 番号	申請番号	事業主体	施 行 地	面 積 (ha)	搬出材積 (m ³)	ha当たりの 搬出材積 (m ³)	証 明 書 等	搬出方法
							納品伝票／現地検測野帳／写真	車輛系／架線系
計								

※証明書、写真等の証拠書類は補助金申請書への添付は任意

社会保険等の加入実態状況調査表

整理番号	
------	--

事業実施期間：令和〇年〇月〇日～令和〇年〇月〇日

作業者名	労災保険		雇用保険		健康保険		厚生年金保険		退職金共済				計	直営・請負別	備考 (常用・臨時・再雇用等)	申請 番号
									中退共 以外		中退共					
	加入	6点	加入	1点	加入	5点	加入	10点	加入	2点	加入	3点				
		0点		0点		0点		0点		0点		0点	0点			
		0点		0点		0点		0点		0点		0点	0点			
		0点		0点		0点		0点		0点		0点	0点			
		0点		0点		0点		0点		0点		0点	0点			
		0点		0点		0点		0点		0点		0点	0点			
		0点		0点		0点		0点		0点		0点	0点			
		0点		0点		0点		0点		0点		0点	0点			
		0点		0点		0点		0点		0点		0点	0点			
		0点		0点		0点		0点		0点		0点	0点			
		0点		0点		0点		0点		0点		0点	0点			
		0点		0点		0点		0点		0点		0点	0点			
		0点		0点		0点		0点		0点		0点	0点			
合計													0点			
平均													#DIV/0!			

※証明書等の証拠書類は、補助金申請書への添付は任意

別記様式 7（委任状及び精算依頼書の場合）

委任状及び精算依頼書

私どもは、〇〇森林組合長〇〇〇〇を代理人と定め、次の 1 の事項を委任します。
なお、あわせて補助金受領の際、次の 2 の代金を精算されるよう依頼します。

- 1 下記に記載の森林整備に対する〇〇年度（第〇期）森林環境保全整備事業（造林関係）補助金の交付申請手続き及び受領に関すること
- 2 補助金事務取扱手数料の精算代金

〇〇森林組合

組合長 〇〇 〇〇 殿

年 月 日		
申請番号	住所及び電話番号	氏名

注 1：申請番号は、補助金交付申請書に添付する申請内訳書【別紙 3】の申請番号と一致させる。

注 2：日付は、委任者全員の委任が完了した日とする。なお、補助金交付申請書の提出以前の日付であること。

注 3：委任者本人が補助金交付申請書の内容が正しく記載されていることを確認すること。

注 4：多人数の場合は欄のみ別紙で作成して続ける。

農林水産業・食品産業の作業安全のための規範（個別規範：林業）
事業者向け チェックシート

令和 3 年 2 月 26 日
林野庁

事業者名	
記入者 役職・氏名	
業種 (○を付ける。複数選択可)	素材生産／造林・保育／その他()
雇用労働者の有無	有 / 無
記入日	令和 年 月 日

現在の取組状況をご記入下さい。

具体的な事項		○:実施 ×:実施していない △:今後、実施予定 ―:該当しない
1	作業安全確保のために必要な対策を講じる	
1-(1)	人的対応力の向上	
1-(1)-①	作業事故防止に向けた方針を表明し、具体的な目標を設定する。	
1-(1)-②	知識、経験等を踏まえて、安全対策の責任者や担当者を選任する。	
1-(1)-③	作業安全に関する研修・教育等を受ける。また、作業安全に関する最新の知見や情報の幅広い収集に努める。	
1-(1)-④	適切な技能や免許等が必要な業務には、有資格者を就かせる。	
1-(1)-⑤	職場での朝礼や定期的な集会等により、作業の計画や安全意識を周知・徹底する。	
1-(1)-⑥	安全対策の推進に向け、従事者の提案を促す。	
1-(2)	作業安全のためのルールや手順の順守	
1-(2)-①	関係法令等を遵守する。	

具体的な事項		○:実施 ×:実施していない △:今後、実施予定 ー:該当しない
1-(2)-②	高性能林業機械やチェーンソー等、資機材等の使用に当たっては、取扱説明書の確認等を通じて適切な使用方法を理解する。	
1-(2)-③	作業に応じ、安全に配慮した服装や保護具等を着用する。	
1-(2)-④	日常的な確認や健康診断、ストレスチェック等により、健康状態の管理を行う。	
1-(2)-⑤	作業中に必要な休憩をとる。また、暑熱環境下では水分や塩分を摂取する。	
1-(2)-⑥	作業安全対策に知見のある第三者等によるチェック及び指導を受ける。	
1-(3)	資機材、設備等の安全性の確保	
1-(3)-①	燃料や薬剤など危険性・有害性のある資材は、適切に保管し、安全に取り扱う。	
1-(3)-②	機械や刃物等の日常点検・整備・保管を適切に行う。	
1-(3)-③	資機材、設備等を導入・更新する際には、可能な限り安全に配慮したものを選択する。	
1-(4)	作業環境の改善	
1-(4)-①	職場や個人の状況に応じ、適切な作業分担を行う。また、日々の健康状態に応じて適切に分担を変更する。	
1-(4)-②	高齢者を雇用する場合は、高齢者に配慮した作業環境の整備、作業管理を行う。	
1-(4)-③	安全な作業手順、作業動作、機械・器具の使用方法を明文化又は可視化し、全ての従事者が見ることができるようにする。	
1-(4)-④	現場の危険箇所を予め特定し、改善・整備や注意喚起を行う。	
1-(4)-⑤	4S(整理・整頓・清潔・清掃)活動を行う。	
1-(5)	事事故事例やヒヤリ・ハット事例などの情報の分析と活用	

具体的な事項		○:実施 ×:実施していない △:今後、実施予定 ー:該当しない
1-(5)-①	行政等への報告義務のない軽微な負傷を含む事故事例やヒヤリ・ハット事例を積極的に収集・分析・共有し、再発防止策を講じるとともに危険予知能力を高める。	
1-(5)-②	実施した作業安全対策の内容を記録する。	
2	事故発生時に備える	
2-(1)	労災保険への加入等、補償措置の確保	
2-(1)-①	経営者や家族従事者を含めて、労災保険やその他の補償措置を講じる。	
2-(2)	事故後の速やかな対応策、再発防止策の検討と実施	
2-(2)-①	事故が発生した場合の対応(救護・搬送、連絡、その後の調査、労基署への届出、再発防止策の策定等)の手順を明文化する。	
2-(3)	事故時の事業継続のための備え	
2-(3)-①	事故により従事者が作業に従事ができなくなった場合等に事業が継続できるよう、あらかじめ方策を検討する。	

別記様式 9

環境負荷低減チェックシート（林業事業者等向け）

事業実施主体名		提出時期	
記入年月日		申請時（します） ☐	報告時（しました） ☐

	チェック	（１）適正な施肥 ※ 種苗生産を行う場合（該当しない ☐ ）
①	☐	肥料の適正な保管
②	☐	肥料の使用状況等の記録・保存に努める

	チェック	（２）適正な防除 ※ 農薬を使用する場合（該当しない ☐ ）
③	☐	農薬の適正な使用・保管
④	☐	農薬の使用状況等の記録・保存

	チェック	（３）エネルギーの節減
⑤	☐	林業機械や施設の電気・燃料の使用状況の記録・保存に努める
⑥	☐	省エネを意識し、不必要・非効率なエネルギー消費をしないように努める

	チェック	（４）悪臭及び害虫の発生防止 ※ 発生源となる場所で作業する又は発生原因となるものを扱う場合（該当しない ☐ ）
⑦	☐	悪臭・害虫の発生防止・低減に努める

	チェック	（５）廃棄物の発生抑制、適正な循環的な利用及び適正な処分
⑧	☐	廃棄物の削減に努め、適正に処理
⑨	☐	未利用材の有効活用を検討

	チェック	（６）生物多様性への悪影響の防止
⑩	☐	生物多様性に配慮した事業実施（物資調達、施業等）に努める

	チェック	（７）環境関係法令の遵守等
⑪	☐	みどりの食料システム戦略の理解
⑫	☐	関係法令の遵守
⑬	☐	林業機械等の装置・車両の適切な整備と管理の実施に努める
⑭	☐	正しい知識に基づく作業安全に努める

注：（１）、（２）又は（４）の※で示す場合に該当しない場合は、「該当しない」にチェックをすることとし、当該項目の各取組のチェック欄へのチェックは要しない。

別記様式10

消費税仕入控除税額に相当する補助金の返還に関する同意書

令和 年 月 日

島根県知事 様

住所
氏名

私は、令和 年度森林環境保全整備事業の補助金交付申請に当たり、消費税法に基づく納税対応については、免税事業者（予定）として申し出ます。

また、次の事項について同意します。

1. 消費税の申告により課税事業者となり、当該補助金に係る消費税仕入控除税額が確定した場合には、島根県森林環境保全造林事業実施要領様式2により該当の補助金交付申請番号等を速やかに知事に報告するとともに、知事の返還命令を受けて消費税仕入控除税額に相当する補助金を返還すること。

- ※ 預り金処理を行う場合において森林所有者が免税事業者の場合、本様式は森林所有者が作成する
- ※ 補助金等を売り上げとして計上する場合において事業主体が免税事業者の場合、本様式は事業主体が作成する

別記様式 1 1

収入及び支出を明らかにした帳簿

申請単位番号	年月日	摘要	収入	支出	差引額	備考
			円	円	円	

注1:「摘要」欄には、収入(支出)先を記入する。

注2:「備考」欄に事項(苗木代、肥料代等)を記入する。

年度(第 期)施行台帳

(単位:ha、m、%、円)

[illegible]

注1:施行地ごとに、収入及び支出を整理する。

注2:収入及び支出の科目は適宜修正することができる。

別記様式 1 3

年度(第 期)補助金及び経費明細書

(単位:ha、m、%、円)

申請 番号	施行地			林小班			森林 所有者	補助金交付内訳							精算内訳					支 払 額	補 助 金 支 払 年 月 日	備 考
	市 町 村	大 字 ・ 字	地 番	林 班	小 班	枝 番		作 業 種	樹 種	林 齢 (植 栽 年 度)	齢 級	面 積 ・ 延 長	伐 採 率	森 林 経 営 計 画 等 の 認 定 番 号	補 助 金 額	事 務 手 数 料	苗 木 代	森 林 保 険 料	計			

注1: 補助金配付を金融機関の預金口座を利用して行った場合は、振込書を整理しておくこと。

注2: 補助金配付を現金で行った場合は、受領書を申請番号順に整理しておくこと。

注3: 補助金に係る収支を整理するものであるため、精算内訳は補助金により賄うべきもののみとする。